

令和元年度第1回
東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会
資料評価部会（典籍・文書部会）

令和元年10月30日（水）
東京都江戸東京博物館 2階会議室

午後 1 時49分開会

矢中文化施設担当課長代理：それでは、出席の委員の皆様はおそろいですので、始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

本日は、お忙しい中、御出席いただきましてありがとうございます。

ただいまから、令和元年度第1回「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会資料評価部会（典籍・文書部会）」を開催いたします。

私は、東京都生活文化局文化振興部文化施設担当課長代理をしております、矢中と申します。本日の司会を務めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

資料収蔵委員会には、収集部会と評価部会がございます。収集部会は江戸東京博物館の収蔵品としてふさわしいか否かを御審議いただく会、また、この評価部会は江戸東京博物館の収蔵品としての価格を個別の委員の方々に評価いただく会となっております。

なお、本日の午前中に収集部会を開催いたしておりまして、今回当部会でお諮りする案件につきましては、収蔵するのが適切であるという御意見をいただいているところでございます。

本日の評価部会につきましては、都民の財産となる貴重な資料にふさわしい、適正な価格評価をよろしくお願いいたします。

まず初めに、東京都江戸東京博物館副館長の小林から御挨拶を申し上げます。

小林副館長：本日は、東京都江戸東京博物館資料収集委員会評価部会にお集まりいただきまして、まことにありがとうございます。

今年度第1回の資料収蔵委員会となります。

本評価部会では、1点の絵巻と1点の典籍を御評価いただくこととなります。どれも常設展示あるいは展覧会での活用が可能であり、江戸東京博物館に必要な資料でございます。

御審議のほど、何とぞよろしくお願いいたします。

矢中文化施設担当課長代理：続きまして、本日御出席いただきました委員の皆様を御紹介させていただきます。

私から向かって左手の席から、順に御紹介させていただきます。

加藤委員でございます。

永井委員でございます。

湯浅委員でございます。

真田委員でございます。

新名委員でございます。

続きまして、事務局職員を御紹介いたします。

東京都江戸東京博物館事業企画課長の飯塚でございます。

それでは、これから議事に入りたいと思います。

それに先立ちまして、当部会の公開の取り扱いについて申し上げます。

当部会は、「東京都江戸東京博物館資料収蔵委員会設置要綱」第12の規定によりまして、原則公開となっております。そのため、委員の皆様のお名前と現職名は東京都のホームページ上にて公開しております。一方で、当部会における評価対象資料の価格評価に関する議事は、同要綱第12の第1項（1）の規定によりまして、非公開となっております。

なお、当部会の議事録につきましては、同要綱第12の第2項の規定により、資料収集決定後、公開を予定しております。公開に当たりましては、事前に委員の皆様にご確認させていただきたいと考えております。

ただし、同要綱第12の第2項（1）により、委員の皆様の個別の価格評価については、非公開という取り扱いとなります。

それでは、議事に入りたいと思います。

まず、飯塚課長から本日御評価いただく資料の説明をお願いいたします。

飯塚事業企画課長：説明の前に、お手元の資料の確認をお願いいたします。

まず、一番上に会議次第がございます。

A4の委員名簿がございます。

A4の収蔵委員会設置要綱が2枚ございます。

A4縦判で、令和元年度第1回資料収蔵委員会資料評価部会（典籍・文書部会）説明資料が1枚ございます。

A3横判で、令和元年度第1回資料収蔵委員会資料（資料評価部会 典籍・文書部会）が2枚ございます。

最後に、A3横判で令和元年度第1回資料収蔵委員会（典籍・文書部会）評価票が1枚ございます。

なお、お配りした名簿の肩書き等に誤りがございましたら、恐れ入りますが、後ほど事務局へ御連絡いただければと存じます。

また、お手元にお送りしました資料につきましては、現時点では未公開の情報が含まれておりますので、会議終了後、回収させていただきたく存じます。

それでは、今回御評価いただく資料について説明いたします。

A4の「令和元年度第1回資料収蔵委員会資料評価部会（典籍・文書部会）説明資料」をごらんください。

まず、1. 《紅葉山八講法会図巻》です。

江戸中期の作でございます。

8代将軍徳川吉宗が、徳川家康の百三十回忌に当たる延享2年（1745年）に、江戸城内紅葉山東照宮で催した法要の様子を描いた図巻です。

八講法会とは正式には天台宗の法要で「法華八講」といい、内容は、法華経一部八巻を、4日間ないし5日で講説するものです。延享2年の際には、3月13日から17日までの5日にわたり営まれました。

八講法会の起源は古く、平安時代初期とされます。当時の貴族が天台宗を厚く信仰して

いたことから、法会も絢爛豪華なものであったとされます。吉宗がこの時期に法要を行ったことは、家康の追善に加え、将軍吉宗を初め嫡子家重、御三家、両卿がそろって法要を営むことによって徳川家の結束を示すとともに、幕府の権威を内外に知らしめる目的もあったと思われます。

本図は、この法要の中日に当たる3月15日を取り上げたもので、将軍吉宗と嫡男家重、輪王寺宮門跡公遵親王の「大行動」の様子を描いています。白張に始まる行列は、同朋、隨身、大目付と続き、本多伊豫守忠統を初め小姓や小納戸が将軍の輿を警備する様子が描かれています。その後を家重、公遵親王の輿が続いています。全長16メートルにも及ぶ行列の図は圧巻で、人物もさまざまな表情で描かれています。作者は不明ですが、江戸城紅葉山で行われた行事であること、彩色の鮮やかさや、精緻な筆致から見ても幕府の御用絵師によって描かれたものと思われます。

祭礼などを描いた行列図は比較的に見ることができますが、将軍家の法要を描いたものは珍しいといえます。本図巻を常設展示「江戸城と町割り」コーナーで展示することで、徳川氏の法要の様子をひもとくことができるとともに、華やかな武家の装束を示すことができます。

なお、公益財団法人徳川記念財団も本図巻と同様の題箋・壮丁の巻子を所持しており、そちらには3月13日と15日に行われた法要の様子が5場面に分けて描かれています。

続きまして、2. 《オリンピック招致アルバム「東洋のスポーツ中心地東京」》でございます。

これは、昭和8年（1933年）制作の資料です。

東京市がオリンピック招致活動のために制作したアルバムです。IOC委員を務めた柔道の創始者、嘉納治五郎らの活躍により、1936年（昭和11年）7月のIOC総会で、アジア初の東京大会開催が決定しました。1940年（昭和15年）に開催を予定していましたが、日中戦争の激化に伴い開催権を返上し、幻の東京のオリンピックとなりました。

これは、日本で初めてのオリンピック招致に際し、東京をどのように世界にアピールしたのかがわかる資料です。東京の街並み、風景、競技場などの施設、日本の武道等を紹介する写真が収録されています。嘉納治五郎も招致活動の際、みずからもこのアルバムを配ったといえます。IOC委員らを中心に海外向けに配布されたという性格上、国内の所蔵例は少なく、貴重な資料です。

常設展示「1964東京オリンピック」コーナーを初め、オリンピック関係の展示での活用が可能です。

説明は、以上でございます。

矢中文化施設担当課長代理：ただいまの説明に対して、御質問や御意見等はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

次に、評価方法についての説明させていただきます。

お手元にお配りしました評価票に、金額を記載し、署名していただきます。評価額の最高価格と最低価格を除いた残りの価格の平均値を委員会としての評価額といたします。

評価方法の説明は、以上になります。

それでは、資料の実見をしていただきたいと思いますので、御移動をお願いいたします。また、資料に関する個別の御質問につきましては、会場におります学芸員にお尋ねください。

よろしくをお願いいたします。

(委員離席)

(資料実見)

(委員着席)

矢中文化施設担当課長代理：それでは、議事を再開させていただきます。

先ほど資料をごらんになっていただきまして、何か、御意見、御質問等がございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

質問等がございませんようでしたら、お手元にお配りしております評価票に、価格評価、金額の記入と御署名をお願いいたします。金額は、消費税込みの金額で記載いただくようお願いいたします。なお、今月から消費税は10%になっておりますので、御注意いただきまして、御記入をお願いいたします。

お手元にありますペンで記入をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

(評価票記入)

矢中文化施設担当課長代理：御記入がお済みになった方は、係の者が記載を確認させていただきますので、挙手もしくはお声がけください。確認が終わりましたら、御退席いただいて結構です。

本日は、ありがとうございました。

午後 2 時33分閉会

以上